

司祭のてがみ

2002.10.20 No. 5

行橋カトリック教会・豊津巡回教会 主任司祭：ミカエル山元眞
〒824-0006行橋市門樋町 8-5
TEL. 0930 (22) 0805 / FAX. 0930 (22) 0816
E-mail : makotochan@aries.bekkoame.ne.jp
http://homepage.mac.com/makotochan1

司祭の黙想会

信徒の皆さんが年に一度、黙想会をするように、司祭も年に一度、司祭としての生活を見直すために、黙想会をします。今年は10月14日(月)の夜から18日(金)まで、宗像の福岡黙想の家で行われました。福岡教区(福岡、佐賀、熊本県)で働く日本人の司祭が33人集まりました。一日二回行われる説教を基に黙想をしますが、今年は横浜教区長の梅村昌弘司教様(50歳)の指導でした。司教様は、教皇様が今まで出された公文書を基に、司祭としての生活について話されました。



福岡黙想の家

★《交わりの人・交わりの教会》

梅村司教様が説教の中で強調されたことは、教会は《交わり》であるということです。「交わり」とはラテン語でコムニオといいますが、この言葉は「一致」とか「ひとつであること」などを意

味しています。神と人との交わり、人と人との交わり、信徒と司祭、修道者との交わり、社会の人たちとの交わりです。また、教会どうしの交わりも求められます。司祭は、その交わりの教会で奉仕するために、「交わりの人」となるように呼ばれている、と教皇様は言われます。

『司祭は高慢であってはならず、怒りっぽくならないように、かえって、気さくで、手厚くもてなし、ことばと心において誠実、慎重で判断力があり、奉仕に対して寛大で自由、自己犠牲のできる人、すべてにおいて率直で兄弟的な関係を築くことができ、理解し、ゆるし、慰めることのできる人となるよう求められています。…司祭が「交わりの人」であることは、今日、もっとも力強いしるしの一つであり、また福音のメッセージを伝える、より効果的な手段の一つです。』

(司祭の養成に関する教皇様の文書より)

はたして、自分は、教皇様が言われるような「交わりの人」であるかどうか…。このような「人」は遠い理想のような気がします。しかし、司祭は「交わりの人」となるように努力しなければなりません。まだまだ理想とは遠い自分ですが、この理想を目指して励んでまいりたいと思いますので、よろしく(忍耐を?)お願いします。

★《他者のための教会》

このような「交わりとしての教会」は自分たちのためにあるのではなく、本来は、他者のためにあるものです。信徒の皆さんは、司祭とともに、この交わりの教会に生き、すべての人びとが神の救いの福音を述べ伝える教会の使命に参加することができるように、互いに奉仕し、協力し合います。そのために、信徒の皆さんは特別な恵み、たまものをいただいています。皆さんが、神さまからいただいている「たまもの」は何でしょう？それを教会のために使ってください。

せかいせんきょう 世界宣教の日

10月20日の世界宣教の日に教皇様は全世界の信者に向けてメッセージを発表されました。その要約をお伝えします。

《宣教は、ゆるしを告げ知らせること》
教会の使命である福音宣教は、本質的に、私たちの主イエス・キリストのご生涯、および、死と復活を通して啓示された神の愛と、あわれみと、ゆるしを、人びとに告げ知らせることです。神はすすんで私たちをゆるしてくださり、また、私たちも人から受けた侮辱をゆるすようにと求めておられます。このようにして、神は私たちを愛し、あわれみ深い愛のうちに、皆が一つになることを望んでおられる、という嬉しい便りを公に宣言することです。

《宣教の義務はより大きな緊急課題》
キリストを知らない人、また教会に属していない人の数は増え続けています。

実際その数は、第二バチカン公会議が終わったころ（約35年前）の二倍近くになっています。御父に愛されている人類のこの大部分のことを考えるとき、そして、とくに御父がかれらのためにご自分の子を遣わされたことを思うとき、教会の宣教する使命が緊急の課題であることは明らかです。…

《キリストの掟》

最後の晩餐に際して、贖い主キリストは使徒たちに言われました。「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる」（ヨハネ13・34-35）。

《宣教の主な方法は、誠実な対話》

対話それ自体が目的ではありません。むしろ、信仰の原理を肯定し、信仰の最も深い真理を愛のうちに告げながら、敬意と理解をもって他者に話させる対話、喜びと希望、存在の意味を分かち合う、そういう対話であること。注意深い、尊敬に満ちた対話への努力は一つの条件であり、これがなければ、人を救う神の愛の、真のあかしはありません。

世界宣教の日は、私たちの個人としての召命と、共同体としての召命の価値をよりよく発見していくための助けとなります。同様に、世界各地で働いている宣教者たちを通して「より小さい兄弟たち」（マタイ25章）に助けの手を差し伸べるよう私たちを促します。